

写真：松ヶ迫池（大分県国東市）

農業用ため池がつなぐ
いのちと暮らし

－多面的機能発揮のための管理及び保全のポイント－

農林水産省

令和８年11月





写真 上：西山第３ため池、下：上之平１号・２号（ともに岐阜県中津川市）

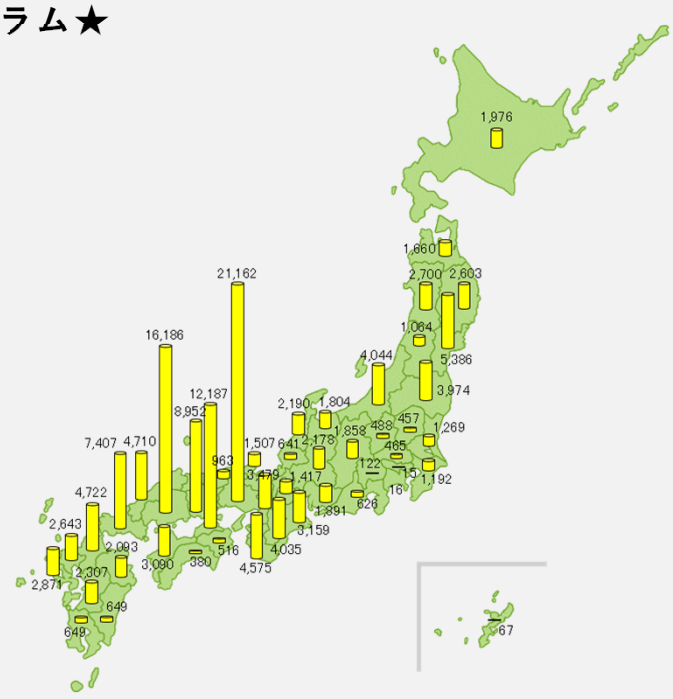
★コラム★

～農業用ため池とは～

降水量が少なく、大きな河川がない地域などで、農業用水を確保するために人工的に造られた貯水池のことです。水を貯め、必要なときに取水できるよう整備されています。

全国に約15万か所あり、西日本（特に瀬戸内地域）を中心に分布しています。

農業用ため池の多くは、江戸時代以前に築造されたものです。当時の人々が各地域で試行錯誤を重ねて得た経験をもとに造られたと推測されています。



ため池分布状況（令和８年３月末時点）

はじめに

日本全国には、約15万か所の農業用ため池（以下「ため池」）があります。

ため池は、農業用水を確保・供給する役割に加え、地域を守る洪水防止機能、生物多様性を保全する機能、体験学習や教育の場となる機能など、多面的機能を有しています。

しかし近年、農業者の減少や高齢化により日常管理が行き届かず、多面的機能が十分に発揮されなくなってきたため池が増えています。

ここでは、ため池が持つ多面的機能とは何か、さらにはその機能を引き出し、次世代につなぐための管理・活動のポイントも紹介します。

本冊子が、ため池について理解を深め、ため池の管理に取り組むための一助となれば幸いです。



目次と構成

はじめに P. 2

その１　ため池の多面的機能 －５つの力－ P. 3

その２　知っておきたい！ため池管理の大切さ P. 5

その３　多面的機能発揮のための管理・保全のポイント P. 6

その４　ため池をみんなで守るために P. 9

おわりに P. 11

価値を知る

現状・方法を考える

実践する

その１

ため池の多面的機能 －５つの力－

ため池は、農業用水を貯めて農地へ届けるだけでなく、生きもののすみかとなったり、地域の人々の憩いの場になったりと、多面的な機能を持っています。

さらに、降雨時には雨水を一時的に貯めて洪水を緩和したり、土砂の流出を防いだりと、防災面でも重要な役割を担っています。

中には、地域に伝わる言い伝えや祭りなど、文化や伝統の発祥となってきたため池もあります。

農業

「水を貯め、農地を潤す」



防災・減災

「雨を受け止め、地域を守る」



環境・生態系

「生きものを育む、水辺のゆりかご」



歴史・文化

「地域の歴史と文化の源」



地域・交流

「人が集い、心をつなぐ」





農業「水を貯め、農地を潤す」

- ため池の最も基本的な役割は、農業用水の確保です。
- 雨の少ない時期や地域の田畑にも安定して水を届け、作物の生育を支えています。



防災・減災「雨を受け止め、地域を守る」

- 近年、全国各地で集中豪雨が増えています。
- ため池は、雨水をいったん貯めて、水が一気に下流へ流れ出すのを防ぎ、洪水被害を減らします。大雨の前に水位を下げて”空き容量”をつくることで、その効果はさらに高まります。
- 緊急時には、消火活動の水源（防火用水）としても利用されます。



環境・生態系「生きものを育む、水辺のゆりかご」

- ため池は、田んぼや川とつながりながらトンボ・カエル・魚・鳥など、多様な生物を支えています。
- ため池が作り出す水辺は、暑さをやわらげる効果もあります。
- ため池がつくる豊かな自然と美しい景観は、人々に癒しと安らぎを与えます。



歴史・文化「地域の歴史と文化の源」

- ため池の多くは、江戸時代以前から受け継がれてきたものです。
- 築造に携わった人々の知恵や技術、そして祈りや祭りといった地域固有の文化が今も息づいています。
- 水にまつわる行事や伝承は、人々と自然がともに暮らしてきた証です。



地域・交流「人が集い、心をつなぐ」

- ため池は、釣りや散歩、清掃活動、環境学習など、人々が集まり交流する場として活用されています。
- 地域行事や学校の活動などを通じて、子どもから大人まで、世代を超えたつながりが生まれます。

その２

知っておきたい！ため池管理の大切さ

ため池は、長年にわたって地域の暮らしを支えてきましたが、近年は決壊や越水のリスクが高まっています。

① 集中豪雨の増加

近年、日本各地でこれまでに経験のない集中豪雨が増加。

越水の可能性UP！

② ため池の老朽化

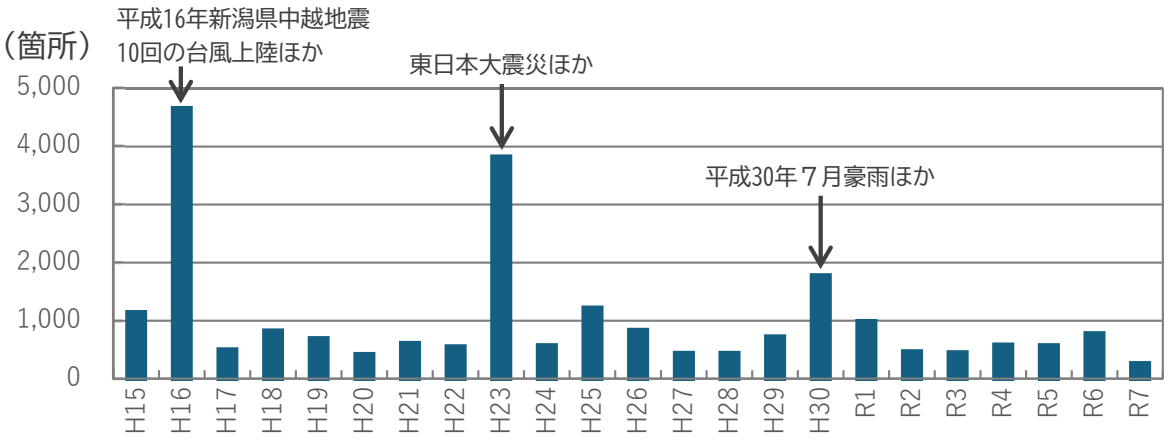
経年劣化により、小さな漏水や法面の崩落などが増加。

放置すると重大な事故に！

③ 管理者の減少

高齢化や人口減少で、ため池の管理を行う人や見守る人が減少。

十分な管理が難しくなる！



農業用ため池の被災状況

ため池の多面的機能は、どれも適切な管理の継続によって維持されます。管理が途切れると、草木が生い茂り、ため池の機能が低下して地域の安全が脅かされるだけでなく、地域に受け継がれてきた文化や景観も失われかねません。



写真：豪雨により決壊したため池

その３

多面的機能発揮のための管理・保全のポイント

　その１で紹介した多面的機能は、ため池が健全に保たれていてこそ十分に発揮されます。

　防災力を含む多面的機能を維持・向上させるため、日常点検・管理により、異常を早期に発見して対応することが重要です。

ポイント１．日常点検の継続

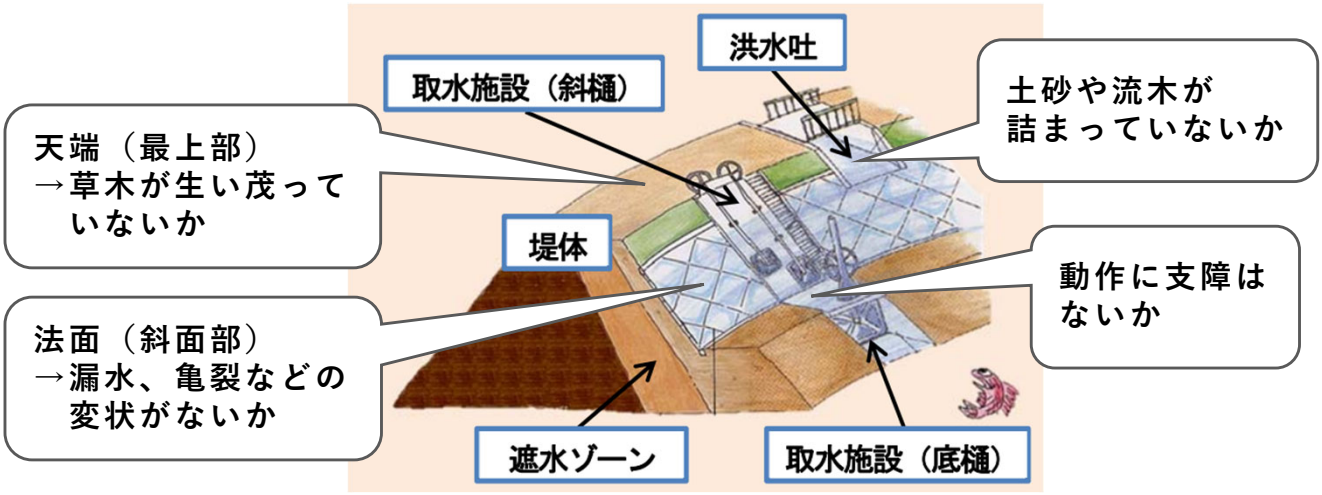
「小さな変化」にも気づけるよう、ため池の状態を普段から見守る。

＜日常点検のポイント＞

- 点検は、雨の前後や季節ごとなど、短時間でも頻繁に継続して行うことが大切です。
- 大きな変状、継続する漏水、堤体の沈下など、専門的な判断が必要なときは、迷わず行政やため池サポートセンターへご相談ください。

日常点検・管理のポイント、点検チェックシートなど

ため池管理マニュアル



工夫事例①

ため池サポートセンターと連携した点検

- 福井県福井市や島根県松江市では、市の職員、ため池管理者、ため池サポートセンターが連携し、点検要請のあったため池を対象に合同点検を実施しています。
- 関係者間で情報共有が図られるとともに、専門家による現地の利用状況を踏まえた技術的な助言が得られ、より有効な対応につながっています。



写真：水土里ネット島根

工夫事例②

ため池管理アプリで点検作業を省力化

- 宮城県仙台市、愛知県春日井市、鳥取県米子市、兵庫県淡路市、滋賀県大津市などでは、日常管理に「ため池管理アプリ」を導入しています。
- 日常管理結果や災害によるため池の被害の報告・共有がスマホで簡単にでき、管理者と行政双方の省力化につながっています。



写真：農研機構

ポイント２．日常管理による対応

点検で気づいた「小さな異常」を放置せず、適切な手入れを行う。

＜日常管理のポイント＞

➢ 日常管理により、異常を早期に発見し、適切な対応を行うことで、機能を健全に保つことができます。
例）定期的な草刈り、流木やゴミの除去、動物が掘った穴の埋め戻しなど

➢ 日常点検と同様に、専門的な判断が必要な場合は、迷わず行政やため池サポートセンターなどへご相談ください。

工夫事例③

ラジコン草刈機の導入で労力軽減



写真：
岡山県
美作市

- 宮城県仙台市や山口県宇部市などでは、地域の人手不足に対応するため、草刈り作業を民間業者に委託しています。
- 多面的機能支払交付金を活用して、定期的（春と秋など）にため池堤体の草刈りを実施している地域が多くあります。
- ラジコン草刈機の導入で、滑落や重労働を防ぎ、省力化を図っている地域もあります。

工夫事例④

地域で行う小規模修繕

- 地域で対応可能な場合は、多面的機能支払交付金を活用した直営施工が行われています。
- 小さな修繕への早期対応が、将来の修繕コストを抑えることにもつながります。



ポイント３．記録・情報共有による地域防災力の強化

ため池の安全・価値を守るために、記録や経験を残しておく。

＜記録・情報共有のポイント＞

➢ 情報の蓄積があれば、次の担い手も適切に管理を行うことができます。
例）点検記録、補修履歴、異常時の対応状況など

➢ 様々な工夫により、情報の蓄積と引き継ぎが円滑になります。
例）写真の活用、ICTの活用、記録様式の統一、市町村や地域での共有など

➢ ため池の役割や危険箇所の共有は、地域防災力の向上にもつながります。



工夫事例⑤　管理者向けに定期的な合同研修を開催



写真：兵庫県淡路市

- 多くの市町村で、国・県・土地改良区・ため池サポートセンターが連携して、管理者向けの研修会を定期的に開催しています。
- 相談窓口の設置、「ため池管理アプリ」を活用した実地訓練なども行われています。

★コラム★

「ため池管理アプリ」とは

ため池管理者や市町村担当者がスマホ等から、緊急点検や日常点検の結果等を報告できます。

← iPhone

← Android

ダウンロードはこちら

ポイント４．洪水調節機能を発揮するために

洪水調節機能の発揮には、ため池の日常管理と事前放流等の運用が重要。

＜洪水調節機能を発揮するためのポイント＞

➢ **日常管理の徹底と安全な放流**

洪水吐きの清掃や堤体の点検を定期的に行い、施設能力を維持します。水位の急降下は、堤体崩壊を招くリスクがあるため、取水や放流の際は、斜樋を順番に開けるなど慎重に操作することが重要です。

➢ **降雨前の「空き容量」確保**

農家の方々等と調整のうえ、「事前放流」や「低水位管理」により、降雨時の流入水を貯める容量を確保することが重要です。洪水吐きに「スリット」※1を設ける簡易改修は、管理負担を抑えつつ常に空き容量を確保でき、効果的な洪水調節につながります。

空き容量を確保することで、雨水などの流入水をため池に貯留し、下流域の洪水を軽減することができます。





※１：スリット
洪水吐の一部に設ける切り欠き。手間をかけずに低水位を保つことができます。

➢ **ため池の特性（流域比や規模）に応じた防災対策の選択**

流域比（流域面積／満水面積）が小さいほどピーク時の洪水量を抑制する効果が高く、規模が大きなため池ほど下流への流出を減らせます。ため池の特性を把握し、地域で効果の高い池から優先的に対策を進めることが有効です。

工夫事例⑥

ため池遠隔監視システムを使用した低水位管理

- 水利組合等の管理者に低水位管理を呼びかけることで、防災意識の向上を図ることができます。
- 京都府亀岡市では、自治会からの要望により、一部のため池で遠隔による低水位管理を実施しています。

「ため池の洪水調節機能強化対策の手引き」事例なども紹介

ため池の洪水調節機能

その４

ため池をみんなで守るために

その３で紹介したため池の管理・保全の取組を持続的に行っていくためには、管理者だけではなく、多様な主体の参加により、支え合う仕組みが欠かせません。

① 管理者のみなさま
責任と誇りをもって

あなたの点検が、地域の安全を守ります。

日々の努力が、多くの人々の安心につながっています。

② 活動組織のみなさま
仲間と力を合わせて

草刈りや清掃は、みんなでやれば楽しく継続できます。

支え合い、地域力を維持・向上しましょう。

③ 地域住民・学校
未来を育てる学びの場

子どもたちがため池で生きものを観察し学習する機会を作りましょう。

その活動が未来の“守り手”を育てます。



工夫事例⑦

池干し（かいぼり）による安全性向上と地域交流

- ため池の水を抜く「池干し」を行うことで、取水施設の状態など、普段は見えない部分の点検が可能になります。
- 「池干し」を学校の総合学習やイベントとして生きもの調査と合わせて行うなど、地域交流の場としても活用できます。



写真：愛知県半田市（有脇地区）

次のページでは、多様な主体の参加を促進し、ため池の多面的機能が発揮されるための取組を長年続けている先進的な取組事例を紹介します。

事例紹介 『いなみ野ため池ミュージアム』（兵庫県東播磨地域）

Point： 住民・学校・地域団体・行政など多様な主体を巻き込み、ため池を通じた地域づくりを継続

兵庫県東播磨地域のため池群は、歴史的価値が高いにもかかわらず、管理者の高齢化等により維持管理が難しくなっていました。そこで、ため池の改修等をきっかけに管理者と地域住民が話し合いを重ね、防災工事とともに利活用施設整備と保全活用を行うため、現場主導で「ため池協議会」が立ち上がりました。

複数のため池協議会が地域に点在するようになり、ため池を通じた地域づくりを継続するため、地域全体を「まるごと博物館」と捉えるエコミュージアムの考え方を取り入れ「いなみ野ため池ミュージアム」が創設されました。

○ 取組によって得られた効果

効果①　協働の基盤強化

「ため池クリーンキャンペーン」など、老若男女が参加しやすい活動を通じ、管理者と住民の信頼関係が深まり、協働の基盤が強化されました。



～能楽へのいざない～ため池への祈りの謳

効果②　ため池の新たな魅力発信

コウノトリプロジェクト、水辺ウェディング、能楽など斬新な企画を通じて、ため池の新たな魅力が広がり、普段ため池と関わりのない人にも関心の輪が広がりました。



読書感想文コンクール表彰式

効果③　次代への継承

小学校での疏水学習を20年近く続け、2万人を超える児童が参加。こうした原体験が、地域の意識を少しずつ変えるきっかけになっています。

○ 20年以上にわたる継続の中で見えてきた課題

- 協議会役員や活動団体の高齢化と後継者不在により、活動の固定化や水利組合等の負担が増大
- 大規模災害の頻発、人口減少、SDGs・ネイチャーポジティブといった社会の変化、デジタル発信への対応

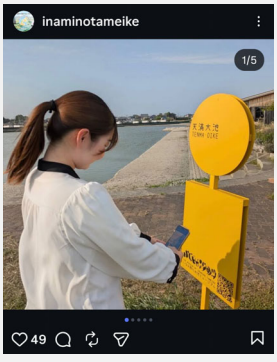
○ 課題解決に向けた新たな取組

新たな取組①　地域外の人材の活用

地域外の人材を「行動計画推進員」として登用し、各ため池協議会において今後の活動を話し合う際に、個別にサポートできる体制を整えました。

新たな取組②　つながる情報発信

当ミュージアム運営協議会が、デジタルスタンプラリーなどが楽しめる携帯ゲームアプリ「ため池GO!」を明石工業高等専門学校と共同開発し、 2025年5月に運用を開始しました。



「ため池GO！」を使ったスタンプラリー

ため池でQRコードを読み取ると、現地での学びや体験が深まる

新たな取組③　ため池協議会活動の課題整理

協議会活動の課題を見つけ出すカードゲームを甲南大学と共同開発。楽しみながら課題を整理し、共有できるようにしました。



カードゲームの様子

現在は、活動を自分ごととして進める仕組みづくりを進めています。また、優良事例の共有や先進的な取組への支援を通じて、協議会同士の交流を促し、活動水準の底上げも図っています。多様な担い手が連携できる体制を構築し、ため池を「先人の遺産」ではなく**「未来の資産」として次世代へ引き継ぐ**ことを目指しています。

おわりに

管理者の減少や高齢化が深刻化する中で、ため池の多面的機能が発揮されるための管理・活動のポイントを紹介しました。

それぞれの地域で、ため池が持つ「多面的機能」への理解と、多様な関係者の「参加・協力」をキーワードに、長年にわたって地域のため池を守るための様々な活動が行われています。

草刈りや日常点検など、地域の小さな取組を応援する国の制度もあります。国や自治体の支援も活用しながら、無理なく続けていきましょう。



イラスト：いなみ野ため池ミュージアムHP

ため池は、地域の暮らしを支え、いのちと文化を守る大切な存在です。
みなさんのちょっとした気づきや行動が、これからの地域をより良くします。
迷ったときは、まず身近な行政窓口へご相談ください。

お問い合わせ先

農林水産省　農村振興局　整備部
防災課　防災・減災対策室
代表：03-3502-8111（内線 5661）
ダイヤルイン：03-6744-2210

ため池の防災・減災対策に活用可能な補助事業

取り組みを応援する国の制度を紹介しています！

ため池　補助事業